

情 報 公 開 文 書

研究の名称	臨床検体から分離された侵襲性感染症原因菌の分子疫学解析と薬剤耐性化の経年的推移（多施設共同研究）
受付番号	356
研究機関の名称	富山赤十字病院（東京医科大学微生物学分野）
研究責任者	富山赤十字病院 腎臓・リウマチ・感染症内科 部長 川根隆志
研究の概要	<p>【研究対象者】 富山赤十字病院で侵襲性感染症が疑われた患者の無菌検査材料から検出された肺炎球菌、溶血レンサ球菌を対象とします。</p> <p>【研究の目的】 近年、微生物検査室を有する中規模以上の医療機関あるいは検査センターにおいては、機器による質量分析法による菌種・同定技術の普及、さらには簡便な菌種同定法も開発されつつありますが、それらの方法にはいずれも感度ならびに特異度に限界がみられます。 そこで、研究機関（東京医科大学微生物学分野）に解析依頼することにより、詳細かつ迅速に病原因子を解析してもらえるため、治療上の参考データとして大きな意義を有します。 また、研究機関においてもデータを蓄積することで世界の同様の成績と比較でき、解析結果は治療の補助的役割を果たし、研究対象者に利益となります。</p> <p>【研究方法】 無菌検査材料から検出された肺炎球菌、溶血レンサ球菌を「バイオハザード輸送用機材」にて研究機関へ解析依頼。 依頼菌株は、連結不化匿名化された状態のため研究対象者への明らかな不利益はありません。</p> <p>【研究期間】 2021年3月11日から2026年3月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 症例がある程度まとまった段階において学会発表と論文としての公表予定。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法	本来無菌的な検査材料、すなわち血液、胸水、髄液、関節液、閉鎖性膿汁等から分離され、かつ菌種として肺炎球菌あるいは溶血性レンサ菌（GAS、GBS、SDSE）が疑われる菌株。
試料・情報の管理責任者	富山赤十字病院 腎臓・リウマチ・感染症内科 部長 川根隆志
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望および個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>担 当 者 富山赤十字病院 腎臓・リウマチ・感染症内科 川根隆志 電 話 番 号 076-433-2222 受 付 時 間 平日 14時～16時</p>